

県西教育事務所だより

未来に向かって 高い志を持ち たくましく生きぬく 人づくり
「学校に元気を 先生方に自信と勇気とやる気を 子どもたちに夢と生きる力を」 平成28年12月20日発行（第9号）

授業の工夫改善を目指して
平成28年度学力向上推進プロジェクト事業に係る授業力ブラッシュアップ研修
国語科重点校第2回授業発表会、協力校授業発表会が開催されました。

《重点校》下妻市立高道祖小学校 11月30日(水)

研究主題 深まりのある読みを目指した表現活動の在り方
—読んだことを整理する活動を通して—

4年生「くらしの中の和と洋」の教材で、本時の目標を「自分で選んだ和のよさを伝えるために、その根拠となる文を引用したり要約したりして、自分の考えをまとめることができる」、6年生「海のいのち」の教材で、本時の目標を「『命』についての考えを交流することを通して、課題に対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる」と設定し、授業を行いました。協議では、「今日の授業を自校の実態をふまえて改善するとしたら、どこをどのように工夫するか」（目的を明確にした交流活動にするためには）を柱に話し合いが行われました。

研究協議を通して、「複数の叙述を関連付けたことを基に、自分の最も伝えたいことを伝えるようにすること」「交流をした後に、出てきた新たな課題や自分の中で解決できないことについて、全員で考えを出し合う。出された友達の考えを参考にしながら自分の考えを深めていくこと」の2つのことについて、日々の授業改善に向けた共通理解を図りました。



【高道祖小の授業の様子】

《協力校》桜川市立岩瀬小学校 12月7日(水)

研究主題 数学的な表現力、思考力を育成する算数科学習指導の在り方
—自分の考えを「書く、伝え合う、比べて深め合う」授業の工夫を通して—

3年生「円と球」の単元で、本時の目標を「球の半径や直径の長さの関係をもとに、ボールが隙間なく入る箱の縦と横の長さの求め方を考え、図や式、言葉を用いて説明することができる。」4年生「広さの表し方を考えよう」の単元で、本時の目標を「式から図形を読み取り、複合図形の求積方法を式と図を関連付けて、言葉で説明することができる。」と設定し、授業を行いました。協議では、「今日の授業を自校の実態をふまえて改善するとしたら、どこをどのように工夫するか」（自分の考え方を式や図、言葉と関連付けて書いたり説明したりするためには）を柱に話し合いが行われました。

研究協議を通して、「児童から問いを引き出す授業の導入を工夫すること」「児童の予想をこえる考えを教師側が用意し、授業の最後に児童が納得する授業展開にすること」の2つのことについて、日々の授業改善に向けて共通理解を図りました。



【岩瀬小の授業の様子】

【1月の予定】

○ 英語教員リーダー育成事業に係る専門指導員の公開授業 (外国語活動指導法研究推進校 総上小学校)

18日(水) 下妻市立総上小学校 6年1組
授業者 常総市立石下西中学校 梁谷志乃舞 教諭
下妻市立東部中学校 小出 美沙 教諭

○ 理科教科担任制モデル校公開授業研究会

26日(木) 坂東市立沓掛小学校
授業者 入江 公代 教諭

○ 理科教育の中核となる教員研修授業研究

19日(木) 坂東市立弓馬田小学校
野村 裕太 教諭 西野 慎一 教諭(常総市立大生小学校)
25日(水) 下妻市立騰波ノ江小学校
菱沼 英則 教諭 栗原 正典 教諭(古河市立西牛谷小学校)
27日(金) 古河市立西牛谷小学校
栗原 正典 教諭 菱沼 英則 教諭(下妻市立騰波ノ江小学校)
30日(月) 筑西市立小栗小学校
野村 篤子 教諭 佐藤 翔太 教諭(桜川市立樟蔭小学校)

【人事課からのお知らせ】

【服務規律の確保と不祥事の『ゼロ』をめざして】

○ 年末・年始に際し、様々な会合が開催されるなど、飲酒の機会も多くなることから、厳に飲酒運転の根絶及び服務規律の確保について、その徹底をお願いいたします。

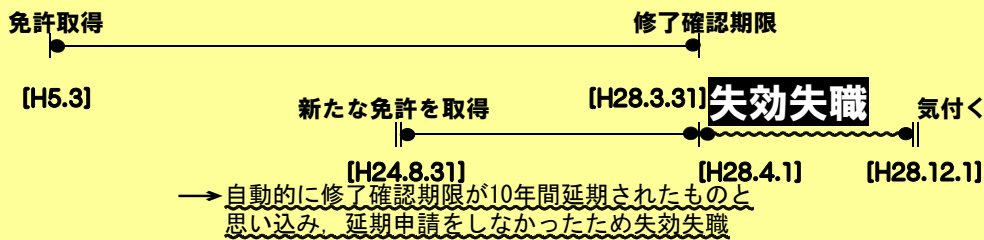
【年末・年始、特に徹底してほしいこと】

- (1) 飲酒運転の根絶
- (2) 個人情報の漏洩・紛失・盗難の防止
- (3) 交通事故・速度制限超過違反の防止
- (4) ソーシャルメディア(SNSや動画共有サイトなど)の適切な使用について

【教員免許更新の確認】

失職の事例

◎第6グループ(昭和45年5月生まれ)の教諭の例—旧免許状所持者(平成21年3月31日以前に教員免許状を取得している者)



【確認】

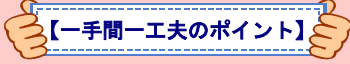
旧免許状所持者が修了確認期限に免許状を失効させない主な方法は

- ①更新講習を受講し、更新講習修了確認申請を行う。
- ②新たな教員免許状を取得後、修了確認期限延期申請を行う。
- ③更新講習受講免除対象者(管理職等)は、更新講習受講免除申請を行う。

【シリーズ「授業の中での人づくり」⑦】

～横瀬郁子教諭(八千代町立八千代第一中学校)の実践～

八千代町立八千代第一中学校では、目指す生徒の姿を「自ら課題を見つけ、課題追求に根気よく取り組む生徒」とし、日々の教育活動に取り組んでいます。横瀬郁子教諭は、理科の授業を中心に、生徒たちが、「なるほど」「わかった」「できた」ということが実感できるように予想や仮説の検証方法を探る活動を重視して、科学的な見方や考え方の育成を目指し指導にあたっています。



【一手間一工夫のポイント】

～『納得解』を実感できる授業とするためのポイント～

【実践例】 第3学年 理科 水溶液とイオン

電解質水溶液から電流を取り出すことはできるだろうか。

目標： 化学電池をつくる実験を通して、電流が発生するには異なる種類の金属による電極が必要であることや、電極の変化について理解を深めることができる。

①予想を重視した授業展開を実践

【八千代一中対100①：見直し10分】

常に既習事項を生かした考え方を引き出す工夫をする。本時の課題を解決する方法を根拠をもって考える。

②課題に一工夫

【八千代一中対100②：問題解決10分】

本時は、グループによって電極となる金属の組み合わせを変え、各班の実験結果に違いがでるようにした。

③話し合いで思考を深める場面を設定

【八千代一中対100③：10分】

グループで意見を話し合い、その意見を全体で比較分類することで、新しい視点や気付きが生まれるように仕掛ける。

④自分の言葉で学習をまとめる習慣

【八千代一中対100④：振り返り10分】

自分の言葉で学習のまとめをする習慣を大切にする。活動内容について板書やノートを振り返ることで文章にまとめられるような授業展開を設定する。

電解質水溶液にはイオンがある。イオンは電気を帯びているから電流が発生するはずだ。



【予想に基づいた実験】

あれ？電流が流れない。導線が切れているのかな？あっちの班は電流が流れてるぞ！私たちの班と何が違うのかな。



【他班との相違の原因推測】

種類の違う金属を組み合わせた電極だと電流が流れるんだ。銅と亜鉛の組み合わせがよく分かるぞ。しかも電流が発生すると銅板に気泡が付くぞ。亜鉛板は表面がざらざらになってきた。



【金属を変えた検証実験】

【横瀬教諭から】

この授業では、あえて教科書とは異なり、統一した実験機材を使わずにグループによって異なる資材で実験を行い、その結果を持ち寄り全員で一定の法則を導き出し検証するという展開を実践しました。どの班にも電流が生じる訳ではないことから、話し合いでは、各グループの違いは何なのか、お互いに注意深く実験装置を見比べる姿が見られました。そして、電極の違いに気付き検証実験を行いました。本時の達成感、電流が生じたかどうかという点ではなく、電流が流れる条件について自分たちで解明したことにありました。

このような経験の積み重ねが、困難を冷静に分析して解決策を探る「生きる力」につながると信じて、日頃から教材を様々な角度から研究し、生徒が協力して「納得解」を得られる授業の実践に取り組んでいきたいと思っています。

県NIE推進協議会指定

「言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を高めるための学習指導の在り方」をテーマに、新聞を活用した授業研究に取り組んでいます。

坂東市立神大実小学校の実践 11月25日(金)

坂東市立神大実小学校では、県NIE推進協議会の指定を受け、平成27年度・28年度の2年間、「言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を高めるための学習指導の在り方」をテーマに、新聞を活用した授業研究に取り組んでいます。

低学年では「わたしのはっけん ～動物の様子の写真から想像して会話を書こう～(1年生)」など、新聞の写真からイメージを膨らませて表現する学習、中学年では「はたらく人とわたしたちのくらし ～工場の仕事を『はがき新聞』で伝えよう～(3年生)」など、伝えたいことをわかりやすく表現する学習が展開されました。高学年では「新聞記事を読み比べて意見を書こう ～リオ五輪の記事に関する考えを伝え合おう～(6年生)」など、複数の記事を読み比べて記者や読者の思いを伝え合ったり、読後の考えをまとめて発表し合ったりする学習が繰り返されました。

研究協議では、まず「全国学力・学習状況調査」や「県学力診断のためのテスト」の結果から「読む力」「書く力」の向上及び「無答率の低下」が本校の成果として発表され、その後新聞記事の教材化と活用法について話し合いが行われました。

新聞記事を活用した授業を展開する中で「読む力」「書く力」の向上だけでなく、「情報を整理し活用する力」「要旨を捉える力」「自らの考えを発信する力」が高まると教師自身が実感し、各教科の学習活動へと活用が広がってきています。



【記事に込められた記者の思いを伝え合う】